



平成30年7月26日(木)に、福島市コラッセふくしまでは、全国各地より総勢52名の方々が集まり、全国の難聴・言語障害教育の現在と未来について熱い情報交換が行われました。来賓の皆様からのご挨拶をいただいたのち、議事と全国調査の中間まとめの報告がありました。

<会長挨拶>

全難言協会会長・世田谷区立駒沢小学校長 寺崎 晶子

昨日の夕方福島に入り、今朝のNHKニュースで全難言協の大会が取り上げられていたのを見て、県あげて応援してくださっているのだと嬉しく思いました。お会いする方が皆温かく、穏やかでユニークで、とてもいい気持ちを抱かせていただきました。郷土愛がいっぱいの福島。大会を成功させたい気持ちでいっぱいです。

<来賓挨拶>

福島県教育庁 特別支援教育課 主幹兼副課長 西村 則昌様

ようこそ福島県へいらっしゃいました。福島県でも1位2位に入るほど暑い日に、全国からお集まりいただいた皆様を心から歓迎いたします。本県では「地域で共に学び、共に生きる教育」を基本理念に、切れ目のない支援体制を整備するために、特別支援学校における地域支援センター整備や教育支援アドバイザーの配置を行い、相談支援体制の充実を図っています。また、増加している特別支援学級や通級指導教室に在籍する児童への対応として、校内の指導支援の充実も図っています。

福島市教育委員会 教育研修課長 羽田 晃様

福島市では、早期から一貫した教育相談及び教育支援を進めるため、就学指導審議会の機能を拡充し教育支援委員会の設置を行いました。早期教育相談を充実し、幼稚園・保育園へ巡回指導も行っています。難聴学級には3名の児童が在籍しておりますが、切れ目のない支援体制整備事業を活用し、難聴についての理解を深めています。言語障害学級は約380名が通級による指導を受けておりますが、年度途中での改善も出ている状態です。全国大会の開催により多くの教職員の専門性の向上につながることを願っています。

全国難聴児を持つ親の会会長 鎌田 浩二様

親の会は難聴児をもつ保護者の団体です。会員数が増え、子供の中には人工内耳の子も増えてきています。わが子は3歳の時人工内耳にしましたが、最近では地区によっては新生児スクリーニングが無償化されて、生まれて1か月、半年で難聴かどうか分かり、1歳で両耳に人工内耳を入れる子も出てきています。難聴の子どもや人工内耳の子どもを同じように扱ってよいのかという課題がでてきています。

昨年から会長を任され、全国大会に参加させていただいて、貴重な情報を持ち帰ることができました。今回も意見交換をしっかりとしたいと思います

その他に、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 滑川 典宏様、同研究所 宇野 宏之祐様からもお話しいただきました。

<各業部からの報告>

- 研究部：はじめのいっぽ 今年度の定員 135 名を決定。平成 31 年度は 8 月 5 日（月）～7 日（水）
- 調査対策部：全国基本調査へのご協力ありがとうございます。報告は 3 月機関誌に掲載される。
- 広報部：全国大会やはじめのいっぽに関して原稿をお願いしたり、広報部員が執筆したりし、ホームページに掲載する。
- 情報ネットワーク部：旧ホームページは閉鎖し、メールアドレスや連絡先も変わる。教材の紹介に力を入れている。
- 庶務会計部：負担金の納入者が不明のものをリストにして配布した。搜索をブロック幹事の先生にお願いしたい。複数校ある自治体が、負担金を一部だけ振り込んだとき、そのことをファックスなどで知らせていただけるとありがたい。機関誌送付先を確定するためである。
- 事務局：各県の理事が替わるとき、引き継ぎをよろしく。都道府県とつながりが切れるとそのあと何年間か情報が全く入らなくなる。そういう事態はなるべく避けたい。

<議事等> 議長：福井貞司先生 書記：小俣美佳子先生

- ・福島大会実行委員長 福島第四小 渡邊浩人校長先生より 第 47 回大会の概要および大会宣言について提案 承認
- ・第 48 回三重大会（H31.8.1～2）実行委員長 津市立修成小 鶴飼 節夫校長先生から大会準備状況報告、大会テーマ「三重で“つながる”」について、分科会の実践報告募集について提案 承認
- ・第 49 回 岡山大会について 承認
- ・事務局提案 岡山県真備町に関して次年度負担金を免除させていただく。 承認

<その他>

- ・資料「全国基本調査 中間まとめ」に関する説明
- ・独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所より、「言語障害のある中学生に関する調査」について

（文責：広報部）

理事会が行われた「コラッセふくしま」

